

# 義肢装具学科 カリキュラム

## 〈2・3年次〉

分野	教育内容	科目名	1年次		2年次		3年次		単位数	時間数	備考	厚生省 労働基 準	
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数					
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	物 理 学	2	30					2	30		14	
		数 理 統 計 学	2	30					2	30			
		英 語	2	30					2	30			
		医 学 専 門 用 語			2	30			2	30			
		心 理 学	1	15					1	15			
		人 間 発 達 学	1	15					1	15			
		保 健 体 育	2	60					2	60	講義・実技		
		美 学			1	30			1	30			
	コミュニケーション論	1	15					1	15				
基礎分野	小 計	11	195	3	60	0	0	14	255		14		
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	医 学 概 論	1	15					1	15		13	
		解 剖 学 I	2	30					2	30			
		解 剖 学 II	1	15					1	15			
		生 理 学	2	30					2	30			
		運 動 学 I	1	15					1	15			
		運 動 学 II	1	15					1	15			
		運 動 学 III	1	15					1	15			
		運 動 学 IV	1	15					1	15			
		運 動 学 演 習			1	30			1	30			
		機 能 解 剖 学			2	30			2	30			
	機 能 解 剖 学 演 習			1	30			1	30				
	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	一 般 臨 床 医 学			1	15			1	15			8
		臨 床 神 経 学			2	30			2	30			
整 形 外 科 学 I				1	15			1	15				
整 形 外 科 学 II				2	30			2	30				
臨 床 心 理 学		1	15					1	15				
病 理 学				2	30			2	30				
保健医療福祉とリハ ビリテーションの理念	社 会 福 祉 学	1	15					1	15		5		
	公 衆 衛 生 学	1	15					1	15				
	リハビリテーション医学			2	30			2	30				
	リハビリテーション特論					1	15	1	15				
	社 会 保 障 論					1	15	1	15				
	福 祉 用 具 学					1	15	1	15				
義肢装具領域 における工学	図 学・製 図 学	1	30					1	30		10		
	機 構 学	2	30					2	30				
	情 報 処 理 演 習	1	30					1	30				
	義肢装具材料学	2	30					2	30				
	義肢装具材料力学	2	30					2	30				
	リハビリテーション工学			2	30			2	30				
専門基礎分野	小 計	21	345	16	270	3	45	40	660		36		

分野	教育内容	科目名	1年次		2年次		3年次		単位数	時間数	備考	厚生労働省基準
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数				
専門分野	基礎義肢装具学	義肢装具学概論	1	30					1	30		19
		義肢装具基本工作論Ⅰ	3	120					3	120		
		義肢装具基本工作論Ⅱ	2	90					2	90		
		装具学演習Ⅰ			1	30			1	30		
		装具学演習Ⅱ					1	30	1	30		
		義肢装具生体力学	1	30					1	30		
		体幹装具学Ⅰ	3	120					3	120		
		下肢装具学Ⅰ			3	120			3	120		
		義足学Ⅰ			3	120			3	120		
		特殊装具学Ⅰ			1	30			1	30		
	応用義肢装具学	下肢装具学Ⅱ			3	120			3	120		20
		上肢装具学					2	75	2	75		
		義手学			1	45			1	45		
		義足学Ⅱ			3	120			3	120		
		体幹装具学Ⅱ					2	75	2	75		
		下肢装具学Ⅲ					2	75	2	75		
		特殊装具学Ⅱ					1	30	1	30		
		義足学Ⅲ					4	165	4	165		
		義足学Ⅳ					1	20	1	20		
卒業研究					2	90	2	90				
臨床実習	臨床実習Ⅰ			4	180			4	180		4	
	臨床実習Ⅱ					6	270	6	270			
専門分野	小計		10	390	19	765	21	830	50	1985		43
	総計		42	930	38	1095	24	875	104	2900		93

# 義肢装具学科カリキュラムツリー

DP① 対象者の心理的・身体的・社会的側面を理解でき、義肢装具を通して支援する知識と基礎的技術・技能を身に付けている。

DP② 対象者へ適切な義肢装具を提供するため、保健・医療・福祉の領域で他の専門職とコミュニケーションを図ることが出来る。

DP③ 専門性を高めるために必要となる義肢装具の研究・開発の基本的プロセスを構築できる。

3年次

【福祉とリハ】  
リハビリテーション特論  
社会保険論  
福祉用具学

【基礎】  
装具学演習Ⅱ  
【応用】  
上肢装具学Ⅱ  
体幹装具学Ⅲ  
下肢装具学Ⅱ  
特殊装具学Ⅳ,Ⅴ  
義足学Ⅳ,Ⅴ

卒業研究  
臨床実習Ⅱ

2年次

【基礎医学】  
運動学演習  
機能解剖学  
機能解剖学演習  
【疾病と障害】  
一般臨床医学  
臨床神経学Ⅰ,Ⅱ  
整形外科学Ⅰ,Ⅱ  
病理学

【福祉とリハ】  
リハビリテーション医学

【基礎】  
装具学演習Ⅰ  
下肢装具学Ⅰ  
義足学Ⅰ  
特殊装具学Ⅰ  
【工学】  
リハビリテーション工学

臨床実習Ⅰ

1年次

物理学  
数理統計学  
人間発達学  
心理学  
保健体育  
英語  
コミュニケーション論

【基礎医学】  
医学概論  
解剖学Ⅰ,Ⅱ  
運動学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ  
生理学  
【疾病と障害】  
臨床心理学

【工学】  
図学・製図学  
義肢装具材料学  
義肢装具材料力学  
機構学  
情報処理演習

【基礎】  
義肢装具学概論  
義肢装具生体力学  
義肢装具基本工作論Ⅰ,Ⅱ  
体幹装具学Ⅰ

基礎分野

専門基礎分野

専門分野

# 3 年 次

令和6年度 前学期

# 時間割

義肢装具学科 3年

		月	火	水	木	金
1	9:00~ 10:30	社会保障論 本田	体幹装具学Ⅱ	装具学演習Ⅱ	上肢装具学	義足学Ⅲ
2	10:40~ 12:10	卒業研究	山形	白ヶ澤	光永	笹川
3	13:10~ 14:40	卒業研究	体幹装具学Ⅱ	義足学Ⅲ 笹川	上肢装具学	義足学Ⅲ
4	14:50~ 16:20		山形	卒業研究	光永	笹川

令和6年度 後学期

# 時間割

義肢装具学科 3年

		月	火	水	木	金
1	9:00~ 10:30	下肢装具学Ⅲ 本田	国家試験対策	リハビリテーション特論 加藤	特殊装具学Ⅱ 本田	義足学Ⅲ
2	10:40~ 12:10			リハビリテーション特論 池田	福祉用具学 竹内 特殊装具学Ⅱ 本田	笹川
3	13:10~ 14:40	下肢装具学Ⅲ 本田	国家試験対策	卒業研究	福祉用具学 竹内 義足学Ⅳ 笹川	義足学Ⅲ
4	14:50~ 16:20				義足学Ⅳ 笹川	笹川

※ 「時間割」は、変更されることがあります。

## 目次：義肢装具学科3年次

リハビリテーション特論 .....	359
社会保障論 .....	359
福祉用具学 .....	360
装具学演習Ⅱ .....	360
上肢装具学 .....	361
体幹装具学Ⅱ .....	361
下肢装具学Ⅲ .....	362
特殊装具学Ⅱ .....	362
義足学Ⅲ .....	363
義足学Ⅳ .....	364
卒業研究 .....	364
臨床実習Ⅱ .....	365

学 科	義肢装具学科 3年次	教育 内容	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	科目名	リハビリテーション特論
代表講師	加藤孝則 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 池田裕輔 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	後期：9回 (18時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	義肢装具士に必要な能力を身につけるため、リハビリテーションの専門職である、理学療法士及び作業療法士の資格を持った教員の指導のもと、関連職種である理学療法士や作業療法士の業務内容について学ぶ。				
授業概要	理学療法及び作業療法の各々の専門分野における、歴史や対象並びに治療手段などについて実技を交えて学ぶ。				
到達目標	理学療法士及び作業療法士の専門性の違いを理解し、評価・目標設定・治療手段について説明できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (100%)				
テキスト・教材等	『リハビリテーション総論 (改訂第3版)』・配布資料				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	臨床場面における理学療法の対象 障害の程度並びに残存能力の把握と問題点の抽出				加藤孝則
第2回	運動療法の定義・目的・方法について (演習)				〃
第3回	物理療法の分類・適応と禁忌について (演習)				〃
第4回	作業療法の歴史・定義、義肢装具士との接点				池田裕輔
第5回	作業療法の対象疾患・目的・役割				〃
第6回	作業療法の評価・治療および支援方法				〃
第7回	総括および国家試験対策				加藤孝則
第8回	総括および国家試験対策				池田裕輔
第9回	試 験				加藤孝則 池田裕輔

学 科	義肢装具学科 3年次	教育 内容	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	科目名	社会保障論
代表講師	本 田 智 裕 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：9回 (18時間)
授業概要	義肢装具士法や医療関係職を規定する法規と義肢装具給付に関連する社会保障制度について講義する。				
到達目標	社会保障制度について理解し、義肢装具士に関わる法律について説明できる。 義肢装具の事務手続きについて説明できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (100%)				
テキスト・教材等	配布資料				
回数	授 業 内 容				
第1回	義肢装具士法及び医療関係職を規定する法の概要				
第2回	日本における社会保障制度の歴史と成り立ち				
第3回	障がい者総合支援法				
第4回	労働災害補償保険法など				
第5回	国民健康保険法、全国健康保険協会法				
第6回	公務員共済保険法、生活保護法など				
第7回	介護保険法、福祉用具法				
第8回	介護支援専門員の役割、福祉用具貸与の具体例など				
第9回	試 験				

学 科	義肢装具学科 3年次	教育 内容	保険医療福祉と リハビリテーションの理念	科目名	福祉用具学
代表講師	竹内久美(所属:熊本託麻台リハビリテーション病院)				
授業方法	講義	単位数	1	学期・回数	後期:9回(18時間)
授業概要	福祉用具に関する概念を学び、その種類と選択から導入時の適応時術を学習する。				
到達目標	義肢装具士が福祉用具について学習する意味目的を理解する。				
成績評価の方法と基準	筆記試験100%				
テキスト・教材等					
回数	授 業 内 容				
第1回	講義:「生活支援と福祉用具、住宅改修」 生活支援、生活環境、住宅改修、在宅(介護者含む)				
第2回	講義:「福祉用具の基本概念と関連法規」 福祉用具の概念、関連法規、福祉用具の種類と分類				
第3回	講義:「福祉用具の使用方法」 移動補助具など				
第4回	講義:「福祉用具の使用方法」 寝具など				
第5回	講義:「福祉用具の使用方法」 排泄用具、入浴用具など				
第6回	講義:「福祉用具の使用方法」 コミュニケーションエイド、ECSなど				
第7回	実技:「福祉用具の使用体験」 移動補助具、寝具、排泄用具、入浴用具				
第8回	演習:「福祉用具のプランニング」福祉用具の選択、特性 条件を見極める技術、効果的な組み合わせ方、使用者の状況、特性の判断技術				
第9回	試 験				

学 科	義肢装具学科 3年次	教育 内容	基礎義肢装具学	科目名	装具学演習Ⅱ
代表講師	白ヶ澤 優 希(所属:熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	演習	単位数	1	学期・回数	前期:15回(30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	義肢装具士として臨床を経験してきた教員が、これまでの経験を活かし、上肢装具に関わる機能解剖・各種疾患の知識を実践的に指導する。				
授業概要	上肢装具の適応となる疾患、外傷等の理解が深まるよう、課題発表を通して主体的学習を促す。 上肢の機能解剖や疾患についての知識を習得する。				
到達目標	各種疾患と適応となる上肢装具を説明できる。 装具療法の方法、目的、効果を説明できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験(60%)、課題発表(40%)				
テキスト・教材等	『装具学』、『装具治療マニュアル』、『標準整形外科学』、配布資料等				
回数	授 業 内 容				
第1回～第2回	上肢のバイオメカニクス(肩関節)				
第3回～第4回	上肢のバイオメカニクス(肘関節)				
第5回～第6回	上肢のバイオメカニクス(手関節)				
第7回～第8回	上肢の疾患・外傷(肩関節)				
第9回～第10回	上肢の疾患・外傷(肘関節)				
第11回～第12回	上肢の疾患・外傷(手関節)				
第13回～第13回	上肢の末梢神経障害				
第15回	試 験				

学 科	義肢装具学科 3年次	教育 内容	応用義肢装具学	科目名	上肢装具学
代表講師	光 永 康 司 (所属：装具屋ミツナガ)				
授業方法	講義・実習	単位数	2	学期・回数	前期：38回(76時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	義肢装具士として長年、臨床業務に携わっている講師が、各種上肢装具の採寸採型・製作・適合に必要な技術、知識について講義実習をおこなう。				
授業概要	上肢装具の採寸採型学、生体力学を総合的に理解し、上肢装具の臨床的側面を中心とした問題解決能力を身につける。				
到達目標	上肢装具の採寸採型、適合評価ができる。 上肢装具の機能、構造、製作方法について説明できる。 上肢装具の各疾患への適応について説明できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験(80%)、製作・適合実習評価(20%)				
テキスト・教材等	『装具学』、『手のスプリントのすべて』				
回数	授 業 内 容				
第1～4回	上肢装具の概要、手背屈装具の理論と実際、採型、モデル修正				
第5～8回	プラスチック成型、トリミング、仕上げ、評価				
第9～12回	対立装具の理論と実際、モデル修正、プラスチック成型				
第13～16回	トリミング、仕上げ、評価				
第17～20回	骨折治療方法としての上肢装具、上腕ファンクショナルブレースの採型、モデル修正、プラスチック成型				
第21～24回	トリミング、仕上げ、評価				
第25～28回	把持装具の理論と実際、採型、モデル修正				
第29～32回	トリミング、仕上げ、評価				
第33～36回	手指外傷・疾患とスプリント				
第37回	各種スプリント(サーモプラスチック)の製作				
第38回	試 験				

学 科	義肢装具学科 3年次	教育 内容	応用義肢装具学	科目名	体幹装具学Ⅱ
代表講師	富金原 敦 (所属：株式会社バンキフ) 山 形 なおみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講義・実習	単位数	2	学期・回数	前期：38回(76時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	義肢装具士として臨床を経験してきた講師が、これまでの経験を活かし、体幹装具の採寸・採型・製作・適合に必要な知識と技術を実践的に指導する。				
授業概要	各種体幹装具の製作を通して採寸・採型・製作・適合の知識・技術を習得する。				
到達目標	各種疾患と適応となる体幹装具の説明ができる。 各種体幹装具を製作し、適合確認・修正から適切な評価ができる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験(80%)、製作実習の作業及び適合評価(20%)				
テキスト・教材等					
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回～第4回	腰仙椎装具の種類と適応 採型及び修正				山形なおみ
第5回～第8回	トリミングラインの決定、メッシュ加工、ミシン縫製				〃
第9回～第12回	板ばね加工、バンド製作、ミシン縫製				〃
第13回～第16回	仕上げ、評価				〃
第17回～第20回	脊椎疾患、各種体幹装具について				富金原 敦
第21回～第24回	脊椎疾患、各種体幹装具について				〃
第25回～第28回	側彎症用装具の理論 採型方法など				〃
第29回～第32回	各グループにおいて製作				〃
第33回～第36回	各グループにおいて製作、製作レポート提出				〃
第37回	頸椎装具の種類と適応				〃
第38回	試 験				山形なおみ

学 科	義肢装具学科 3年次	教育 内容	応用義肢装具学	科目名	下肢装具学Ⅲ
代表講師	本 田 智 裕 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・実習	単位数	2	学期・回数	後期：38回 (76時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	義肢装具士として臨床を経験してきた講師が、これまでの経験を活かし、下肢装具の採寸・採型・製作・適合に必要な知識と技術を実践的に指導する。				
授 業 概 要	坐骨支持長下肢装具・各種膝装具の製作を通して採寸・採型・製作・適合の知識・技術を習得する。				
到 達 目 標	各種疾患と適応となる下肢装具の説明ができる。 各種下肢装具を製作し、適合確認・修正から適切な評価ができる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (80%)、製作実習の作業及び適合評価 (20%)				
テキスト・教材等	『装具学』、『装具治療マニュアル』、『義肢装具のチェックポイント』				
回 数	授 業 内 容				
第1回～第4回	坐骨支持KAFOの理論 採型実習等				
第5回～第8回	陽性モデル修正、プラスチック成型				
第9回～第12回	プラスチック成型、金属支柱加工				
第13回～第16回	金属支柱加工				
第17回～第20回	適合、修正				
第21回～第24回	評価				
第25回～第28回	下肢の疾患と装具の適応				
第29回～第32回	"				
第33回～第36回	膝装具の種類と適応など				
第37回	歩行用装具、その他の特殊な下肢装具				
第38回	試 験				

学 科	義肢装具学科 3年次	教育 内容	応用義肢装具学	科目名	特殊装具学Ⅱ
代表講師	中 島 浩 貴 (所属：オットーボックジャパン株式会社) 本 田 智 裕 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・実習	単位数	1	学期・回数	後期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	車椅子エンジニアとして臨床で多くの車椅子に携わる講師と義肢装具士として臨床を経験してきた講師が、これまでの経験を活かし、車椅子・座位保持装置の適合に必要な知識と技術を実践的に指導する。				
授 業 概 要	各種の車椅子・座位保持装置を通して、座位姿勢のポジショニングと採寸・採型・製作・適合の知識・技術を習得する。				
到 達 目 標	各種疾患と適応となる車椅子・座位保持装置の説明ができる。 車椅子・座位保持装置の適合評価および調整ができる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (80%)、小テスト (20%)				
テキスト・教材等	『車いす・シーティングの理論と実践』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回～第2回	座位保持装置とは、座位保持の基本的事項、姿勢 (構えと体位)				本田智裕
第3回～第4回	座位保持装置の目的 (効果と限界)、姿勢保持具の種類と機能				"
第5回～第6回	姿勢保持のメカニズム、座位の運動学				"
第7回～第8回	モールドバック (シュミレーション)				"
第9回～第10回	車いすの基礎知識、適合の理論と実際 (車いす適合実習を通して)				中島浩貴
第11回～第12回	"				"
第13回～第14回	座位保持装置の対象となる疾患とそのアプローチ				本田智裕
第15回	試 験				"

学 科	義肢装具学科 3年次	教育 内容	応用義肢装具学	科目名	義足学Ⅲ
代 表 講 師	笹 川 友 彦 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・実習	単位数	4	学期・回数	前・後期：83回（166時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	義肢装具士として臨床を経験してきた講師が、これまでの経験を活かし、大腿義足の採寸・採型・製作・適合に必要な知識と技術を実践的に指導する。				
授 業 概 要	大腿義足の製作を通して採寸・採型・製作・適合の知識・技術を習得する。				
到 達 目 標	大腿義足の機能、適合について説明できる。 大腿義足の採寸採型・製作・適合調整・評価ができる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験（100%）				
テキスト・教材等	『義肢学』、『義肢製作マニュアル』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				
第1回～第4回	大腿義足ソケット理論（講義）採型トレーニング				
第5回～第8回	採型トレーニング				
第9回～第12回	陽性モデル修正トレーニング				
第13回～第16回	切断モデル採型				
第17回～第20回	陽性モデル修正				
第21回～第24回	ソケット製作				
第25回～第28回	大腿義足の構成要素と歩行（講義）				
第29回～第32回	ベンチアライメント				
第33回～第36回	切断モデル適合				
第37回	試 験				
第38回～第41回	採寸採型				
第42回～第45回	採寸採型・修正				
第46回～第49回	採寸採型・修正				
第50回～第53回	切断モデル採寸採型				
第54回～第57回	陽性モデル修正				
第58回～第61回	ソケット製作				
第62回～第65回	ベンチアライメント				
第66回～第69回	坐骨収納型ソケットの理論、採寸採型デモ				
第70回～第73回	切断モデル適合				
第74回～第77回	坐骨収納型ソケットの適合デモ				
第78回～第81回	各種膝継手デモンストレーション				
第82回	国家試験対策				
第83回	試 験				

学 科	義肢装具学科 3年次	教育 内容	応用義肢装具学	科目名	義足学IV
代表講師	笹川友彦(所属:熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講義・実習	単位数	1	学期・回数	後期:11回(22時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	義肢装具士として臨床を経験してきた講師が、これまでの経験を活かし、特殊義足・スポーツ用義足の採寸・採型・製作・適合に必要な知識と技術を実践的に指導する。				
授業概要	特殊義足・スポーツ用義足について、テキストおよび動画を通してその採寸・採型・製作・適合の知識・技術を習得する。				
到達目標	特殊義足・スポーツ用義足の機能、適合について説明できる。 特殊義足・スポーツ用義足の採寸採型・製作・適合調整評価ができる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験(100%)				
テキスト・教材等	『義肢学』、『義肢製作マニュアル』、配布資料				
回数	授 業 内 容				
第1回～第2回	膝義足				
第3回～第4回	股義足				
第5回～第6回	国家試験対策				
第7回～第8回	切断者スポーツとスポーツ用義肢				
第9回～第10回	スポーツ用義足を用いたレクリエーション				
第11回	試 験				

学 科	義肢装具学科 3年次	教育 内容	応用義肢装具学	科目名	卒業研究
代表講師	本田智裕(所属:熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講義・実習	単位数	2	学期・回数	前・後期:45回(90時間)
授業概要	これまでに履修した講義・実習を基に、学生自身がより明らかにしたいテーマを見出し、推論や実験によって検証していく研究方法の基礎を習得する。				
到達目標	義肢装具士に必要な研究方法を理解し実践できる。 問題解決能力およびプレゼンテーション力を習得する。				
成績評価の方法と基準	取り組み、研究発表等を総合的に評価する。				
テキスト・教材等	卒業研究の手引き、その他				
回数	授 業 内 容				
第1回～第4回	<p>これまで学んだ内容についての疑問や文献調査から研究テーマを決め、研究計画を策定する。</p> <p>研究計画に基づいて、製作・実験・データ計測等を実施し、その結果検証、再実験、考察を行う。</p> <p>結果を基に、抄録原稿の作成、発表用スライドの作成を行う。</p> <p>第一次中間発表 : 6月中旬(研究の方向性の確認)</p> <p>第二次中間発表 : 9月下旬(研究の結果検証方法の確認)</p> <p>最終発表 : 11月初旬</p>				
第5回～第8回					
第9回～第12回					
第13回～第16回					
第17回～第20回					
第21回～第24回					
第25回～第28回					
第29回～第32回					
第33回～第36回					
第37回～第40回					
第41回～第42回					
第43回～第44回					
第45回					

学 科	義肢装具学科 3年次	教育 内容	臨床実習	科目名	臨床実習Ⅱ
代表講師	本 田 智 裕 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	実 習	単位数	6	学期・回数	前期：270時間
実務経験内容及び授業内容との関連性	義肢装具製作企業等に所属する臨床の義肢装具士の指示の下、義肢装具士の実際の業務に対する認識を深め、同時に基礎的な製作技術や適合方法など幅広く見分を広める。				
授 業 概 要	義肢装具製作企業や関連医療機関で実務を経験することにより、自らの将来像や進むべき専門性を見出し、医療専門職としての自覚を高める。				
到 達 目 標	義肢装具士の業務（製作・コメディカル対応・患者対応等）を理解し適切な対応が取れる。臨床現場での製作技術・適合方法を習得し、実作業に活かすことができる。				
成績評価の方法と基準	臨床実習受け入れ先からの評価表及び臨床実習報告書（学生提出）を総合的に評価する。				
テキスト・教材等					
実習時間	授 業 内 容				
6 週間	<p>実習目的)</p> <p>この実習の目的は、実際の義肢装具の製作や病院等における採型・適合業務を通して、学院内実習では習得が困難な知識や技術を習得することにある。2年次のこの時期では、習得している専門知識も数少ない。従って、実習内容も基礎的な製作技術の習得などに限定されることも多く、基本的には現場の義肢装具士の業務を肌で感じ取ることが、まずは大きな目的になろう。ただし、学生自身がある程度具体的な研修内容を希望すれば、なるべくそれに沿うように条件を整えることも可能である。</p> <p>また、実習期間中は全く見ず知らずの地域や施設において生活を送ることになることが多い。そこで新たな、よい人間関係を作っていくことができるか、ということも実習の内容を大きく左右する。言い替えば、学生個人の「学ぶ」姿勢によって、その評価も大きな影響を受けることになろう。</p> <p>実習期間)</p> <p>6月末より約6週間に渡り、実習生として義肢装具関連施設に受け入れをお願いしている。</p> <p>実習受け入れ施設)</p> <p>地域としては北海道から沖縄まで日本全国に渡り、それらの規模もさまざまである。また、受け入れの殆どは民間の義肢装具製作施設であるが、義肢装具部門を持つ病院やリハビリテーションセンターなども可能である。</p> <p>実習評価)</p> <p>①主観評価：臨床実習最終週に、評価表の評価項目に基づいて学生本人が自己評価（採点）を行う。  ②客観評価：同じ評価表の評価項目に実習指導者が評価（採点）を行う。  ③評価確認：①主観評価と②客観評価の双方の評価を学生に開示し、その差異について、実習指導者との面談を通じた評価確認を行い、②客観評価の内容を理解する。  ④評価報告：臨床実習終了後、学内講師に評価について報告し、質疑応答を受ける。  ⑤最終評価：②客観評価と④評価報告を総合して最終評価とする。  ⑥評価共有：④評価報告ならびに⑤最終評価は臨床実習指導者と共有される。</p> <p>その他)</p> <p>その他の詳細については、オリエンテーションにおいて説明する。</p>				